

平成27年度第1回岐阜県図書館協議会議事要旨

1 開催日時 平成27年8月11日(火) 午後1時30分～午後3時30分

2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1

岐阜県図書館 2階 特別会議室

出席委員	委員長	田村 弘司
	副委員長	葉袋 秀樹
	委員	石黒 啓子
	委員	梶井 芳景
	委員	春日井 一朗
	委員	片山 誠吾
	委員	金森 さちこ
	委員	倉地 幸子

3 議事要旨

(1) 平成26年度岐阜県図書館「図書館評価」報告について

①資料の収集保存について

②図書館サービスについて

(片山委員)

国語の教科書に参考図書として紹介されているものの、学校図書館ではなかなか所蔵していない本がある。それらを小中学校のセット文庫として用意していただいて活用した覚えがある。

小中学校で、セット文庫にかかわったときは、どんな本が良いか聞き取りをしていたと思うが、高等学校を対象としたセット文庫の整備について希望調査をしているか。

(堀江企画課長)

毎年、高校に向けて希望調査を行っている。

総合的な学習の時間に使っていただくものなどを、各校にリクエストしていただいていた。

また、スーパーグローバルハイスクールの関係で、英語の指導に関するものをリクエストしていただいた。

市町村図書館にはできるだけ小中学校向けのセット文庫を頑張ってもらい、県は平成26年度より高校向けにシフトしていくという考えである。

(委員長)

セット文庫の要望が重なることはないか。

(堀江企画課長)

小学校は要望が重なることがあったが、高校は今のところそういった状況にはなっていない。

(石黒委員)

可児市の図書館でもおはなし会をしているが、図書館サービスの対象別おはなし会の具体的な内容と子供たちの参加状況について伺いたい。

(杉山サービス課長)

第1・3日曜日におはなしサポーターによる幼児向けのおはなし会を実施している。

第2木曜日には職員が乳幼児向けのおはなし会を実施している。

第2土曜日にはおはなしサポーターによる小学生向けのおはなし会を実施している。

また、2か月に1回、奇数月の第1日曜日に外国語のおはなし会を実施している。

おはなし会の参加は大変盛んで、特に乳幼児向けの参加は大変多い。おはなしサポーターさんからは、土曜日の参加者の年齢層が下がっていると聞いており、参加する年齢層を見て本を選んでおられるとのこと。

(倉地委員)

特集コーナー設置による読書活動支援のことで意見を述べたい。

本との出会い方だけに絞ると、1階開架室の入口を入ってすぐのところに、「怪談」に関する本の展示がされている。そういう特集を組んでくださることで、個人では探し出せない本との出会いがある。本棚に並んでいる本の背表紙を見て本を探す楽しみはあるが、このように特定のテーマの特集をしてもらうことにより、自分だけでは出会うことのできない本との出会いがある。

背表紙を見て選ぶだけでなく、表紙を見せていただいて出会う。率先して県図書館でそのような取り組みをしてほしい。

利用者と本を近づけるための工夫特集コーナーもそうだが、資料を中心に人と資料が出会う工夫をしてもらえると、図書館に来る楽しみが増える。

③県内市町村図書館等への支援について

④職員研修・広報活動について

(葉袋委員)

行政機関との連携では、教育委員会内での連携が多いように思う。以前は、ビジネス支

援など広く知事部局とも連携していたのではないかと。教育委員会との連携にシフトしているように見受けられる。

広報について、県図書館は、施設も資料も魅力があるが、利用者にその全体が見えるようにはなっていないように思う。ショッピングセンターやレストランの入口の案内のように、この図書館に来たら、こんなサービスが受けられる、ということがわかるようにしていただきたい。

来館者は自分の知っている書架にしか行かないので、もっといろいろな資料やサービスがあることを積極的に示すとよいのではないかと。

(片桐館長)

平成21、22年度にかけ、人・物・金を削った時期がある。その関係で職員もゆとりがなくなって、いろいろなところに働きかけること、自分のところで企画を立てて人を集めることができなくなっている。

業務を少人数精鋭でこなさなければいけないということで、基本的な部分に力を注いできて、他との連携がうすくなったのではないかと。

現在、トップセールスマンということで、産業経済振興センターや県の財団、県の部局へのPR、イベントの共同主催を少しずつ進めてきた。今年9月にサマランカホールと共催する怪談コンサートも1つの成果で、そのほか産業経済振興センターとの連携がある。

また、県職員研修所の自主研究者への資料のレファレンスサービスを行うことで利用が増加している。

来年度に向け、たとえば読書団体のイベントを呼べないかと工夫を始めている。

また、県弁護士会や県税理士会への働きかけをし、イベントをコラボレーションできないかと考えている。

葉袋委員の御指摘のとおり、来館者はある特定のコーナーにしか行かない。館内でのテーマ展示は、「怪談」の前は「ウナギ」をテーマに展示していたが、普段は書庫に保存している本も展示した。特集をすることで、興味を持ってもらえ本を借りて行かれた。

受けられるサービスのカタログについては、工夫をさせていただいてわかるものを作っていきたい。

(倉地委員)

丸善書店が非常に評判がよい。どういう本がどこにあるか表示その他を含めてよくわかる。今後、県図書館、市立図書館、丸善がどう市民をひきつけていくか興味がある。

(片桐館長)

丸善との関係についての資料は用意していないが、言語関係の蔵書数がすごい印象です。また、御指摘のとおり見やすい。業態は異なるが、参考にしていきたい。

平成26年度「図書館評価」について採決を求め、承認された

(2) 「平成27年度アクションプラン」の改訂について

① 収蔵スペースについて

(梶井委員)

収蔵スペースについては、当面クリアされているとのことであるが、なるべく早い対応・アプローチが必要でないか。県図書館の新館建設は、旧館の収蔵スペースが逼迫した状態から三十年近くたってやっと実現した。実現までの間、収蔵スペースがないなら資料購入予算を減らせと言われた。逼迫する前にアクションを起こす必要があり、早めの対応をしてほしい。

② 電子辞書について

(春日井委員)

電子書籍をどういう形で導入するのか。タブレットを導入して利用者に貸し出すのか。

(堀江企画課長)

具体的には決まっていない。電子辞書は場所を取らないなど、利便性もたくさんあるが、データを提供する側が何らかの理由で倒産してしまうとデータが提供してもらえなくなる。メリット、デメリットも調査し考えていきたい。

(堀江副館長)

先進事例によると、パソコンに連動させる形で契約している図書館もある。内部での検討はパソコンを通じたアクセスを調査研究中である。

(春日井委員)

個人のパソコンと会社を県図書館が仲介するのか。

(堀江副館長)

データベースもそうだが、電子書籍の会社と契約して、個人に提供するという先進事例もあるようで、そういうことを研究していく。

「平成27年度アクションプラン」の改訂について採決を求め、承認された

(3) 図書館新館開館20周年記念事業及び図書館リニューアル事業について

(薬袋委員)

岐阜市には大変すばらしい図書館ができたので、今後、県立図書館のサービスの重点は、

他の市町図書館に置き、それらの図書館と連携することが大切ではないか。

こういった取り組みでは、鳥取県図書館の取り組みが参考になる。県立図書館と各市町図書館で連携した企画展示を行っている。

県立図書館が単独でイベントを行うのではなく、市町と連携して、県内の図書館全体が活性化していくことが大切ではないか。利用者に県図書館に来館してもらうことも重要であるが、県図書館の資料を県内の市町立図書館に提供して利用してもらうことが大切で、トータルで県図書館が利用されていることが大切であると思う。

県図書館が誇れるものの一つは「歴史」の蓄積で、古い資料を膨大に所蔵している。

古い資料をもっと県民に見てもらうことはできないか。岐阜市以外の市町と連携して、県民の方に見ていただくことにより、岐阜市立図書館とのすみわけができる。

市立図書館との関係であるが、分野別の蔵書の比較だけではなく、蔵書の重複度を調べてはどうか。日本図書館情報学会では蔵書の重複度を調査しているグループがある。

蔵書の重複度や県図書館の所蔵する独自の資料の内容から、県図書館と市町立図書館のすみわけの在り方や県図書館の県行政や県関係機関に対する支援の在り方が明らかになると思う。

(梶井委員)

市立図書館が開館して1か月近くになるが影響はどの程度か。

(片桐館長)

まだ、1か月たっていないし、統計は月単位で9月初めころに本当の影響がわかる。

実感としては、2割くらい落ちた。

中高生の利用が少なくなった印象がある。県図書館は学習利用をお断りしているが、市立図書館では学習室を用意していることも影響していると思われる。

(梶井委員)

地域への直接サービスは市立図書館が受け持っていることが明らかになってきているのではないか。そんな中、県図書館は全体への支援と特色を出すことが大切ではないか。

貸出冊数は県図書館を評価する数値ではないという立場に立ち返るべき。そうすればおのずと何を収集するかははっきりしてくるのではないか。県の使命、支援図書館としての使命をスタートしていくことが大切ではないか。市町村図書館の後ろ盾となっただけの資料センターとして県立図書館のあり方に期待していく。

(金森委員)

マンパワーが不足しているためになかなか事業のPRができないことがわかった。

今後の県立図書館のPRと方向性について話をしたい。

市図書館との連携は確かに必要なことは間違いないが、今、方向性を打ち出す時期にきているのではないか。専門性を高めて独自性を打ち出す、入館者数の呪縛から解放される

時が来ている。大切なことは、レファレンスの満足度であったり、対応が良いことが大切であると思っている。予算がつかないと本が買えない。努力していただけるといいと思う。

広報、PRについて、丸善のPRの仕方を学んでほしい。県図書館にはこんな素晴らしいことがわかるようにメニュー表があるといい。

平面に貼るだけでなく、ファイリングにして視覚に訴えるのも一つの方法だと思う。

本を借りるときにレシートが出てくる。裏にイベントの案内を印刷してはどうか。

子どもを対象とした図書館探検ツアーなどは、昨年度は学校にもパンフレットやチラシが来て、図書館便りに掲載することができた。セット文庫についても校長会で配布されたものを見たが、校長からの文書があると実務担当者としては動きやすい。こういったものは、学校図書館協議会や校長会で案内してもらえると学校の末端まで情報が回る。

(片山委員)

学校教育の立場からすると、岐阜県は本好き、本を読む子は多いが、指導要領では、読んで、考えて、書く力をつけようということが強調されている。しかし、読むのは好きだが、感想文は書くのは苦手な子が多いので、感想文の書き方教室を開催してはどうか。

コンクールをやると同時に書き方を教えることが学校ニーズに合っている。

(薬袋委員)

県図書館と市立図書館の貸出冊数を単純に比較することは適切ではないと思う。

県図書館と市立図書館では機能と役割が異なり、貸出される本の内容も異なる。

県図書館の機能と役割、蔵書内容、利用の仕方が市立図書館と異なることを明確にしてほしい。

(梶井委員)

市立図書館は県図書館をモデルにしてしまう。

市町村の役割を研修等ではっきりさせて定着させてほしい。

(倉地委員)

市図書館と県図書館では来館者の姿が違う。

市図書館はクールシェアの世界でも市民の要求を満たしている。

図書館のことをよく知らない人が、単純に数字だけを見て比較することがないように、役割の違いを明示してほしい。数字から離れて、内容で勝負してほしい。県立図書館としての中味を追求してほしい。

(委員長)

市立図書館との単純な比較は難しい。長年、市図書館の役割も果たしてきたが、役割の違いを考え直す時期にある。

これからの県図書館の方向性を考えていくことになったと思っている。

(片桐館長)

平成7年7月7日開館以来、県図書館は県図書館の役割にプラスして市立図書館の代替の役割も結果として担ってきた。それが今、市立図書館の開館によって代替の役割はなくなろうとしている。

入館者数の呪縛、貸出冊数の呪縛からは離れ、あるべき姿を真剣に考えていかなければいけない。

次回の協議会では、返事ができるようにしていきたい。